

五大市大会 神戸市12年ぶりの優勝

五大市体育大会サッカー競技は7月9日より11日までの3日間名古屋市鶴舞公園グラウンドで行われ、神戸市は1回戦の京都との試合に敗れたが、敗者復活戦で大阪にPK戦で勝ち、準決勝では地元名古屋を1-0で破って決勝に進出した。決勝戦では再度京都と対戦し、1-1で延長戦に入ったが、双方得点なく結局大会規定により両者優勝となった。

神戸市の優勝は実に21回大会より12年ぶりである。今大会の神戸市代表選手はほとんどが関西社会人リーグ所属の選手で、そのリーグが7月4日まで続いたため合同練習も充分できず、多少の不安をいだいて大会にのぞんだ。しかし、チームの主力となる兵庫教員団と三菱神戸の選手の意気合い、それに加わった西田(大日本電線)北川(双和クラブ)湊(大阪ガス)の御影工OBトリオも健闘し、好成績につながった。

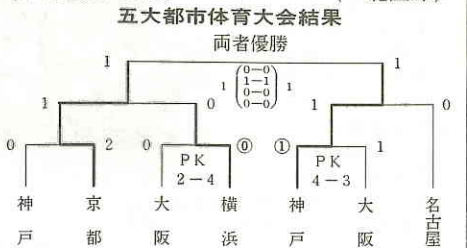
神戸市は第1戦、まだ調子が出ない間に京都に先行されて逃げ切られた。敗者復活戦では関西リーグ1、2位の電々近畿と大阪ガスの強力メンバーで編成した大阪市と対戦。スピードもパワーも一段上った神戸はチームワークで対抗し、前半2分右コーナーキックからの混戦を北川が決めて先制、後半20分頃に大阪に同点とされ、1-1でPK戦になったが、GK松岡の大活躍で4-3で勝ち準決勝に進出した。

準決勝は地元名古屋と対戦、連戦で疲労の激しい神戸は名古屋の鋭い動きに苦戦となったが、若い北川、湊が頑張り、FWがよく健闘し、相手バックスのミスをついて1点を上げ、そのまま逃げ切って決勝進出を決めた。

決勝戦は再度京都と対戦することとなったが、1回戦での敗因をよく研究し、十分なミーティングで対策をねって決勝戦にのぞんだ。後半、京都の亀田に右スミから1点をうばわれたが、神戸もすぐに水野、林が相手ボールをカットし、水野のシュートをGKがはじいたところを岸井が決めて同点とした。延長戦の前半は京都に押されていたが、後半は神戸ペース、もう一歩で決勝点かと思われる場面もあったが京都の守備も堅く、ついに引き分けに終わった。

今大会はコンディションの調整を十分に行えないまま大会に望み不利が予想されたが、各選手の頑張りよく克服し、3日間で4試合をほとんどメンバー・チェンジをせずに闘った選手諸君には全く頭の下る思いである。ゲームに出場しなかったメンバーもよくレギュラーを励まし、サポートし、全員一丸となって優勝を勝ち取った。

なお、今回の名古屋で兵庫県サッカー協会副会長赤川公一氏が大会功労者として表彰を受けた。また、優秀選手表彰でも三菱重工前田正司選手が8回連続出場の実績を認められ表彰された。(一北四郎)



県民体育大会

県西宮 赤川杯を獲得 近畿高校選手権へ5校出場

兵庫県民体育大会は高校総体準々決勝進出の8校が参加して、A、B2ブロックに分かれてのリーグ戦をまず行い、両ブロック上位2校での準決勝、決勝といった方式で、総体終了の次の週から実施するハード・スケジュールとなった。しかし、近畿高校選手権大会への出場権がかかっているため、各チームとも一試合も気の抜けない激しいゲームを展開した。

総体ベスト4と気を良くした県西宮は、県民大会一次リーグのブロックにも恵まれ、Bブロック2位で決勝トーナメントに進出した。準決勝ではAブロック1位の西宮東を延長で破り、決勝では一次リーグで敗れた伊丹西を圧倒して優勝を飾り、赤川杯を獲得した。

インター・ハイ2年連続出場の御影はAブロック2位で決勝トーナメントに進出したが伊丹西に敗れる3位に終わった。高校総体で御影と優勝を分けた三原は連戦の疲れからか動きが悪く、西宮東に敗れ、御影への再挑戦にも敗れてついに近畿大会出場権も失うなど散々な戦いとなった。

県西宮は特に秀いでた選手はいなかったが、一戦ごとに力を着け無欲な戦いが今回の成績につながったといえるが、昨年就任した林啓太顧問(筑波大卒)の指導も力となった。

なお、この結果インターハイ出場の御影と県西宮、伊丹西、西宮東の4校が7月21日から伊丹市内各グラウンドで行われる近畿高校選手権大会に出場する。(一北四郎)

57年度県民体育大会結果

▷1次リーグ

組	西宮東	伊丹西	御影	三原	順位
A組	西宮東	● 2-1	● 0-2	● 2-1	1
	御影	● 1-2	● 0-2	● 1-0	2
	伊丹西	● 0-1	● 2-0	● 1-4	3
	三原	● 1-2	● 0-1	● 4-1	4
B組	伊丹西	● 3-1	● 3-1	● 8-0	1
	県西宮	● 1-3	● 2-1	● 1-1	2
	志智	● 1-3	● 1-2	● 3-0	3
	神戸	● 0-8	● 1-1	● 0-3	4

▷決勝トーナメント

西宮東	2	優勝 県西宮
県西宮	3	準々 伊丹西
御影	0	3位 御影
伊丹西	3	

～ 全国中学校大会市予選 ～ 本山延長で塩屋を下す

第13回全国中学校大会県予選に出場する神戸市代表校を決める市中学校総体は7月21日から24日まで神戸中央球技場サブほか4会場で32校が参加して行われ、新人戦優勝の本山がエース吉川の活躍などで予想通り優勝し、県大会へ駒を進めた。

今大会は緊迫した好ゲームが多く、PK戦が9試合もあった。特に塩屋の頑張り特筆すべきで、本山、高倉、六甲、鷹匠、上野、太田などの名門復活とともに大いに大会を盛り上げた。塩屋は学校にサッカー部が創設されてまだ間もないが、少年リーグに出場している塩屋スクールの出身者が多く活躍の影には少年指導者の地道な努力もある。また、優勝した本山は1回戦で有馬にあわやPK負けかと思われるまで追い込まれたが、よく持ち直し、2回戦から調子を取り戻して決勝に進出、ねばる塩屋を延長で振り切った。

なお、県大会は7月30、31日に行われ、8月10日の三都市大会には塩屋も出場する。

神戸市中学校総体結果



△県民大会で優勝した県西高校

サッカー 教え方 学び方 (7)

協力 毎日新聞社

岩谷 俊夫

映画に出てくる西部劇では必ず絶対に死なないピストルの早撃の名手が主人公になる。ねらいも確かだが、その抜き方の速さは、その一瞬に生死の分かれ目があふだけに、スポーツのような気楽なものではない。

早撃の「拳銃」

おそろく子供のころから、何千回、何万回となく腰のピストルを抜く「素振り」を命がけで練習したに違いない。いつ敵が現れても、また敵が先にピストルに手をかけても、それより早く銃を抜ける速さ、それは昔の武士の抜き打ちとも同じである。おそろく何万回とやったのだから、その人にとっては全く同じ型である。その構え方の基本は、スポーツにおける直せば何十年、何百年かかって研究され、集約された動きの型と違ってよいだろう。それは記録が破られ勝負が決するたびに、研究に研究が積み重ね改良を重ねてきた。日本のサ

ッカーの歴史にも、大正のころはインサイド・キックがあるということすら知らない時代であったといわれる。ヘディングとはどこに当てるのが一番いいかわからない時代であった。人々は暗模索を続けながらも、いつも最上のものを求め、一つの基本フォームを追ってきた。だから基本は一つの型だといえらる。その型を習慣化するこ

インサイド・キック

とは口ではわからない。型で動かしてみ、そこに自然の姿を発見する。たしかに人は同じ形をしているようにみえて、みんな型は違う。見せかけの型は違いますが基礎は同じなのだ。同じ基礎プレーを十人に与えても、結果は人それぞれによって違う。それによって、導入口の基本プレーが違うのだと勘違いしてはならない。「個性と基礎プレーは全く別物である。それをゴッチャにする人が多く、それによって一見識を持っていると自負する指導者がいる。個性



は人それぞれのものである。個性を発見し、のばすのがコーチの役目であって、個性までコーチは指導することはできない。確かにゴルフ理論の研究者・新田恭一氏が何か書いておられたものではないかと思う。わたしの古いメモにそういう引用がある。

話はそれだが、サッカーもいたるところ敵あり、ボールは必ずしも一番けりやすいところにくてくれるわけでもなく、一つ一つが瞬間の勝負だから、この早撃の一つの型を身につけておかなければ渡り合えない。この構えの速さはシュートにも通ずるし、パスにも通ずる。つまり軸足(立ち足)があれば、いつでもいけるという型だ。けるためにいちいち軸足を考えるつてたしのような型ではない。

これをパスに置きかえ、ここではインサイド・キックの型で説明してみよう。ドイツでは「テレフォニー」という言葉がある。電話する、電話する方を向いてかける、とでもいいかえてみようか。パスを出す



インサイド・キック

方に立ち足を踏みかえてインサイドで当てるかこうしてみる。まづけりたい方向に軸足の先を向けて踏み込み、振り足は、つま先を真横90度を開き、これ以上開かないところで足首をやや力を入れる。体を前にかがまず、インサイドで平たい面でパッチと押すようにして振り出す。絶対に、当たる瞬間に足首をこねてはならない。当てるのはクルブシの辺と思えばよい。その正しいフォームも空中動作からはいる。踏み込みさえしたら自動的に一つのキックする姿ができていくというふうにならなければならない。プロ・サッカーの試合を見ていると、いきなりアウトサイドを使って速

いパスをするのを見かけるが、最初はみんなこの基本をこなしたうえで、自分なりの早さをあみ出したのであろう。いきなり一足とびにプロのまねをしても、大成はしない。軸足の踏み込みの早さ、つまり西部劇の早撃の挙動がなくて、引き金をひくことばかり速くても、それは正確性のない動作しか身につかない。両足の自由がきけば、腰に二丁拳銃があるのと同様である。両手、両足のきくスポーツ、それはサッカーの大きな特性の一つだ。

県リーグ前期終了

新日鉄1位でターイン 不振の神戸勢 後期に期待

57年度兵庫県リーグは7月18日、双和クラブ対神戸市役所Aの試合で前期をすべて終了し、新日鉄広畑が6勝1分け1敗、勝ち点13となり1位で折り返した。これに続くのは新加入の三洋洲本(勝ち点11)と昨年1位の西淡(勝ち点10)の淡路勢で、神戸市勢3チームは前期不調で最下位争いをしている。特に新加入の神戸市役所

は故障者も出て1勝7敗と苦しい。また、名門神戸FCも以前に比べてチーム力が攻、守ともに落ちており、後期復調するかどうか注目される。それにしても新加入の三洋洲本の活躍は目覚ましく、企業自身もサッカーに力を入れており今後の活躍が期待される。

なお、前期上位4チームと関西リーグの兵庫教員は第18回全国社会人選手権大会関西予選に出場する。

57年度兵庫県リーグ前期成績 (同勝点の場合は得失点差による)

前期	チーム名	新日鉄	三洋	西 淡	明 倫	日 触	三 木	双 和	KFC	市役所	勝 点
1位	新日鉄広畑		6-1	2-0	2-0	1-0	2-1	1-2	1-1	4-1	13
2	三洋電機洲本	1-6		2-0	3-1	1-3	3-2	2-1	1-1	3-2	11
3	西 淡 F C	0-2	0-2		2-3	3-0	2-1	1-0	2-0	4-0	10
4	明 倫 クラブ	0-2	1-3	3-2		2-1	2-1	1-0	0-1	2-0	10
5	日本触媒姫路	0-1	3-1	0-3	1-2		3-2	2-0	0-0	3-0	9
6	三 木 F C	1-2	2-3	1-2	1-2	2-3		5-2	3-2	2-0	6
7	双 和 クラブ	2-1	1-2	0-1	0-1	0-2	2-5		3-2	3-2	6
8	神戸FC1970	1-1	1-1	0-2	1-0	0-0	2-3	2-3		1-2	5
9	神戸市役所A	1-4	2-3	0-4	0-2	0-3	0-2	2-3	2-1		2

第18回全国社会人選手権大会関西予選組み合わせ

A	B	C	D	E
新日鉄	京	京	万	万
明倫	京	京	万	万
大阪	京	京	万	万
三洋	京	京	万	万
近畿	京	京	万	万
打田	京	京	万	万
田辺	京	京	万	万
新日鉄	京	京	万	万
愛媛	京	京	万	万
三洋	京	京	万	万
西淡	京	京	万	万
大阪	京	京	万	万
日本	京	京	万	万

明日の栄光を 勝ちとれ!

▲80年代をリードする ヤング サッカーウェア



SOCCER WEAR, PANTS, STOCKING



markam マーカム・サッカーシューズ

マーカム11 ケリー・レッド・ブルー・イエロー
サイズ: 18.0-28.0 標準小売価格 ¥4,300
マーカム22 ホワイト・グレー
サイズ: 22.0-28.0 標準小売価格 ¥6,000
マーカム33 ホワイト
サイズ: 22.0-28.0 標準小売価格 ¥7,800



写真はマーカム11・ケリー



モルテン工業株式会社 広島/東京/大阪/名古屋/福岡/札幌